

〈資料〉

第36回環境学習セミナー

『明日の小菅村を探る』～持続可能な地域社会の再検討～

過疎高齢化や限界集落などの悲観的な用語が世間を飛び交うなかで、日本の山村は多くの課題を抱えながらも、素のままの美しい暮らしを、今に継承してきた。源流の郷（日本小菅村発）、エコミュージアム（フランス発）、トランジションタウン（イギリス発）、美しい村連合（フランス発）の4つの代表的事例から、その活動経験を学び、地方消滅論を再検討し、これを克服する方策を探る。

現在、人口700人余の小菅村でも、源流の郷やエコミュージアム日本村など、以前から多く村づくりの取り組みがなされている。これらの経験を自ら学び直し、また、他村の経験をともに学ぶためのセミナーにしたい。

日時：2015年11月14日（土）～15日（日）

場所：山梨県小菅村 役場および中央公民館

主催：NPO法人自然文化誌研究会、エコミュージアム日本村／ミューゼス研究会

共催：NPO法人ECOPLUS

協力：東京学芸大学環境教育研究センター

後援：小菅村

【プログラム】

11月14日（土）

『明日の小菅村を探る』

～持続可能な地域社会の再検討～

12:30～ 受け付け開始（小菅村役場新庁舎）

13:00～13:20 趣旨案内と挨拶：青柳論（ミューゼス研究会代表）

13:20～13:50 源流の郷小菅村：佐藤英敏（小菅村教育長）

13:50～14:20 全国のトランジションタウン活動と藤野の例：小山宮佳江（NPO法人トランジション・ジャパン共同代表）

14:20～14:30 休憩

14:30～15:00 「日本で最も美しい村」連合が目指す地域社会の未来：杉一浩（NPO法人「日本で最も美しい村」連合常務理事）

15:00～15:30 講演「地方消滅論の再検討」：山下祐介（首都大学准教授）

15:30～15:40 休憩

15:40～16:30 質疑応答など

16:30～16:45 まとめ：木俣美樹男（東京学芸大学名誉教授）

夜の部の会場は小菅村中央公民館、植物と人々の博物館の展示案内

18:30～20:30 懇親会（フリートーク・立食）  
歓迎の挨拶：船木直美（小菅村村長）

11月15日（日）

『小菅村を楽しむ』

\*トレイルマップをもとに希望者は各自散策可

9:00～ 集合・説明

9:30～ 体験へ出発

①こんにやく体験と掛け軸畑

（橋立地区：木下新造）

②養殖業と天神山（川池地区：小菅一芳）

11:30 そのまま集合せずに解散（昼食は各自）

写真集



会場は小菅村役場新庁舎。司会進行はミュージーズ研究会代表幹事の青柳諭さん。



各講演者の関係する資料を用意した。



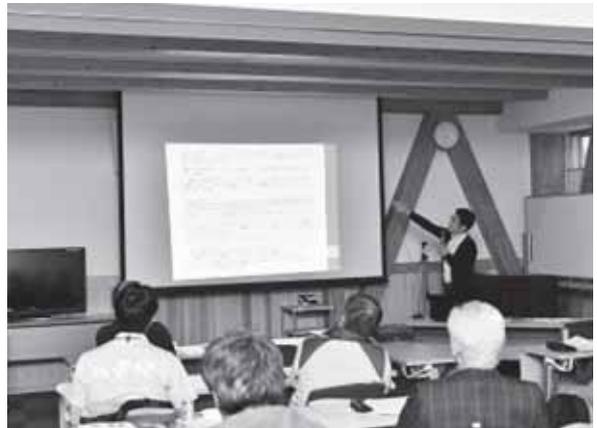
小菅村教育長の佐藤英敏さんによる「源流の郷 小菅村」の紹介。



小山宮佳江さんによるトランジションタウンの紹介。



杉一浩さんより、「日本で最も美しい村」連合について。



首都大学東京の山下佑介さんによる基調講演。

写真集



総合討論では活発な質疑応答があった



懇親会では小菅村食生活改善推進委員会の皆様に郷土食を用意していただいた。



小菅村橋立地区の通称「掛け軸畑」。小菅村の面積の95%は森林であり、こういった南向きの斜面も少ない耕地の一つとして活用されている。主な栽培品種はこんにやく（芋）で、かつては、こんにやく（芋）の販売による「こんにやく御殿」と呼ばれる家も建っただらしい。この掛け軸畑の特徴は、石積みによる段々畑ではなく、まさに掛け軸のごとく（スキー場のような）畑である。なお、小菅村では平成26年より「小菅村源流景観条例」が施行されている。



今回のコーディネーターは、小菅村在住5年目の岡本良太さん。小菅村での「地域おこし協力隊」3年間を経て、そのまま小菅村に在住。今回のフィールドとなった橋立地区の古民家に住んでいる。現在は、一般社団法人を立ち上げ、地域物産の販売、環境教育事業などを行っている。



講師の木下新造（きのしたしんぞう）さん。橋立地区で生まれ育つ。現在、屋号の「日喜屋（ひきや）」ブランドで、（刺身）こんにやくや漬物などの生産と販売を行っている。こんにやくづくりの説明をうかがった。



橋立地区の散策。最近、小菅村に移住した一家も参加した。写真左上の柵は、イノシシ・シカ避けの柵で2年ほど前に設置された。今回訪れた「掛け軸畑」全体は現在、この獣避け柵に囲まれている。